
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 331 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2012.04.12 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 ☆☆ 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 「農業者大学校」が閉校になった！(上) 塩谷哲夫

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

<編集後記> 朝鮮の土と緑と人を愛し続けた男の物語
—映画『道～白磁の人～』

<巻頭言> 「農業者大学校」が閉校になった！(下)

農業者大学校が設立されたのは昭和 43 年当時、日本は経済成長が進展し、それに伴って農村の労働人口が、農村・農業から都会へ工業へと急速に大量に流出した。その結果、新規就農者は急減し、農村の過疎化も進行した。これでは農業・農の基盤が崩壊してしまうと危惧した東畑四郎氏ら有意の人々が政府に働きかけて、農業後継者の育成・確保の対策の一環として「農業者大学校」を設立させたのである。

この学校の特徴的な教育方針は、技術実習は農家（農業生産の現場）で行い、学校ではもっぱら「座学」であった。しかも、哲学・歴史・文化等の科目を重視し、一流の講師を当て、人間としての全面的発達を志向していた。その心は、農民が農業生産の技術者であるだけでなく、農業と言う産業を支える経営者として、また農村地域をリードする人材として育てようとしたところにあった。また、全寮制は学生同士を切磋琢磨させる場となった。

こうした方針は初期には有効に作用して、各県の代表的な高い資質の農家子弟が集い、学び、農村に戻った。その卒業生たちの多くが、現在、各地の農業・農村リーダーとして活動している。

国の直接の機関であった農業者大学校が、いくつかの情勢の変化をうけ平成13年に独立行政法人に移行した後の経過については前号に記したとおりである。



ところで、政府は平成23年度から「農業者戸別所得保障制度」を本格的に実施し、農家ベースからの農業経営体の維持に力を入れている。確かにそれは大事なことである。しかし、併せて、今日の日本の社会環境の下では、農業の担い手を農外にも広げて創出しなければ日本の農業・農村を維持することは叶わない状況にあることは誰しも認めるところであろう。

今国会で、平成24年度から「市町村の地域マスタープランに位置づけられている原則45歳未満の独立・自営就農者に、年間150万円を最長5年間給付」することなどを柱とした136億円規模の「新規就農総合支援事業」を始める予算が通ったことを（十分ではないが）歓迎したい。



そんなときに、今年度を持って「農業者大学校」が閉校せざるを得ないことになったことは誠に残念である。道府県の農業大学校や民間教育施設等の就農者教育組織が広がった今日の状況下では、国営的「農者大」の役目は終わったのかもしれない。しかし、同校が日本の農村・農業を活性化し革新する可能性のタネを全国に散布してきた実績は高く評価されるべきであると思う。

同校の講師として努めてきたものとして、願わくは、“農業者大学校つくば”が始めた農業者創出のための新しい教育の方法が、道府県農業大学校等に普及・継承され、更に発展されて、日本農業・農村振興の基盤を作る力になるようにと期待して、惜別を希望へとつなぎたい。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事・東京農工大学名誉教授

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.127』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

農地の放射能汚染問題の解明◎塩沢 昌

[第 37 回研究所総会・総会記念シンポジウム]

■総会記念シンポジウム「東日本大震災と農業・農村」

(1)東日本大震災による農業インフラの被災状況◎渡邊 博

(2)福島—希望への道筋を探りながら◎戎谷徹也

(3)風評被害を乗り越える経営力を求めて

—東海 JCO からフクシマ◎照沼勝浩

[特別寄稿]

放射性物質汚染の過度な危険視が農業復興を阻む◎西尾道徳

土壌生成理論・腐植前駆物質による放射能汚染対策の

可能性について◎高味充日児

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナリズム [18・最終回]

情愛のふるさと／宇根 豊

<編集後記> 朝鮮の土と緑と人を愛し続けた男の物語

—映画『道～白磁の人～』

「山を緑に戻す。こんなに素晴らしい仕事、他にどこにある」

主人公の浅川巧（1891～1931）はそう言って、韓国併合（1910 年）から間もない朝鮮半島に渡る。

勤務先は朝鮮総督府林業試験場。赴任早々、巧は上司と衝突する。「山に木を植えるのは鉄道を敷いたり家を建てたりするためだ」という上司に対して巧は「山を緑に戻す。他に何かあるのですか」と言い切る。当時の朝鮮半島の山は禿げ山が多かった。巧は、その朝鮮の山を緑に戻すという夢を抱いてやってきたのだ。

巧は植民地としての朝鮮の現実にふれるなかで、支配者としての日本の横暴な

ふるまいにふれるなかで、ある決意をかためていく。それは朝鮮のことは朝鮮に学ぶ、ということだ。

林業での当時の主流は生産性の高い外国種をどう根付かせるかであった。しかし巧は朝鮮の土には朝鮮で育った木がいちばん適しているはずだと考え、種の採取を繰り返し、そして「露天埋蔵法」という朝鮮五葉松の育苗法に到達する。

「朝鮮の人だけが日本語を学ぶのはおかしい」という巧は朝鮮語を職場の同僚・チョンリムから教わる。当時の風潮からすれば、朝鮮人から朝鮮語を学ぶというのはさうとう奇異にうつったことだろう。友情を結ぶ巧とチョンリム。だが、植民地支配という現実は二人の友情に暗い影を投げかける。

三・一独立運動（1919年）に職場の同僚・チョンスが関わり、日本兵によって射殺された。その葬儀に参列しようとする巧に対してチョンリムは「巧さんは自分だけが朝鮮人の見方だと思ってませんか？ 朝鮮の理解者であると思ってませんか？」と激しく言い寄る。2つの民族は理解しあえるのか。これは本作のもうひとつの太い線だ。

そしてこの映画にはもうひとつの線がある。それは映画のタイトルにもなった「白磁」である。兄・伯教によって見せられた白磁を「まるで目から入る音楽だ」と感じた巧は急速に白磁に惹かれていく。美術評論家・柳宗悦とも意気投合し朝鮮民族美術館の創設へと奔走する巧。そうして迎えた朝鮮民族美術館開館日。だがそこで起きた事件が巧とチョンリムの友情を引き裂こうとする……

朝鮮の土と緑と人を愛し続けた男の物語。

巧の墓はいまでも彼の地にあり、現地の人々によって守られているという。

映画『道～白磁の人～』公式サイト

<http://hakujiho.com/>

※露天埋蔵法については

朝鮮五葉への旅

<http://members.jcom.home.ne.jp/lerrmondream/pkkorea.htm>

を参照されたい。

2012年04月12日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 332号の締め切りは04月23日、発行は04月26日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第331号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.04.12（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

*****ここまで『電子耕』*****